

I 結果のポイント

II 全道の状況

I 結果のポイント

1 全道の状況

(1) 平均正答率の推移【P3～5】

- 中学校国語A、理科で全国を上回り、国語Bで全国と同じ。
- 昨年度と比べて、全国との差が小学校国語A、中学校数学Bで縮まり、小学校国語B、算数B、中学校数学Aで広がった。
- 小学校は、全ての教科で全国との差が2.8ポイント（昨年度2.4ポイント）以内。
- 中学校は、全ての教科で全国との差が1.2ポイント（昨年度1.2ポイント）以内。
- 平成30年度の中学校第3学年が、平成27年度に小学校第6学年で調査を実施した結果と比較すると、全国との差が全ての教科で縮まっている。

(2) 各領域等の平均正答率【小学校：P6～7、中学校：P12～13】

- 小学校は、全ての領域等で全国を下回っている。
- 中学校は、国語A「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語B「話すこと・聞くこと」、理科「物理的領域」「化学的領域」「生物的領域」で全国を上回っている。

(3) 質問紙調査【小学校：P8～11、中学校：P14～17】

- 児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、「理科の勉強が好き」な児童生徒や、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」児童生徒、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合は全国を上回っているが、「1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- 学校質問紙調査では、小・中学校ともに、「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」学校や、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」学校の割合は全国を上回っているが、小・中学校ともに、「算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた」学校の割合は全国を下回っている。

(4) 正答数の状況【P18～19】

- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童生徒の割合は、小学校では、全ての教科で全国より高く、中学校では、国語A、国語B、理科で全国より低く、数学A、数学Bで全国より高い。また、前回と比較して小学校国語A、算数A、算数B、理科、中学校国語A、国語B、理科の7教科で改善している。

2 管内の状況

(1) 平均正答率の分布【P32～33】

- 全国以上の管内は、小学校では、国語Aで石狩、胆振、上川、留萌、中学校では、国語Aで石狩、胆振、渡島、上川、十勝、釧路、国語Bで石狩、十勝、数学Aで石狩、数学Bで石狩、十勝、理科で空知、石狩、渡島、檜山、上川、留萌、十勝。

3 市町村の状況

(1) 市町村の平均正答率の度数分布【P92】

- 全国を上回った市町村が各教科で33～101あり、前回（37～98）と比較して小学校国語A、理科、中学校国語A、国語B、数学B、理科で増加している。

(2) 市町村の規模別の平均正答率【P93～95】

- 「大都市・中核市」は、小学校国語A、中学校の全ての教科で全国を上回っている。
- 「その他の市」は、小・中学校の全ての教科で全国を下回っているが、前回と比較して、全国との差が小学校国語A、理科、中学校国語A、国語B、数学B、理科で縮まっている。
- 「町村」は、中学校理科で全国を上回っている。